

第3回 四十四田ダム貯水池堆砂対策検討委員会

議事概要（案）

第3回 四十四田ダム貯水池堆砂対策検討委員会 議事録

開催日時：平成21年2月27日 15時00分から17時00分

開催場所：ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング

出席者：＜委員長＞

平山 健一 (独) 科学技術振興機構 イノベーションサテライト岩手館長

＜委員＞

石川 忠晴 東京工業大学大学院 教授

海田 輝之 岩手大学工学部 教授

堺 茂樹 岩手大学工学部 教授 (欠席)

千葉 啓子 岩手県立大学盛岡短期大学部 准教授

鈴木 穰 土木研究所水循環研究グループ水質チーム 上席研究員

箱石 憲昭 土木研究所水工研究グループ河川・ダム水理チーム 上席研究員 (欠席)

＜行政関係者＞

田上 澄雄 国土交通省東北地方整備局 河川部長

(代理出席 阿部 幸雄 河川情報管理官)

山本 聡 国土交通省岩手河川国道事務所 事務所長

葛西 敏彦 国土交通省北上川ダム統合管理事務所 事務所長

瀬川 純 岩手県環境生活部 部長

(代理出席 荒谷 克己 環境生活部環境保全課 生活衛生・鉱業担当課長)

佐藤 文夫 岩手県県土整備部 部長

(代理出席 今野 正和 河川課河川開発担当課長)

工藤 雄司 盛岡市環境部 部長 (欠席)

川口 節雄 盛岡市下水道部 部長

池内 達 岩手県企業局業務課 総括課長

議事次第

1. 開会
2. あいさつ 国土交通省東北地方整備局 河川部長
3. 出席委員の紹介
4. 委員長あいさつ
5. 議事
 - (1) 当委員会の検討経緯
 - (2) 四十四田ダムにおける堆砂対策
 - (3) 治水容量内に堆積した土砂に対する対策
 - (4) 今後貯水池内に堆積する土砂に対する対策
6. 閉会

1. 開会

- 1) 開会
- 2) あいさつ
- 2) 出席委員の紹介
- 3) 委員長あいさつ

2. 議 事

事務局から、委員会および技術検討会の開催経緯、四十四田ダムにおける堆砂対策、治水容量内に堆積した土砂に対する対策、今後貯水池内に堆積する土砂に対する対策堆砂対策について、資料に基づき説明を行った。

これに対する、委員からの主な意見は以下の通りである。

(1) 質的課題に関わる意見等

- 既調査結果からは、水環境への影響は小さいと考えられる。ただし、質的課題については、今後も長いスパンでモニタリングを継続することが重要である。
- 貯砂ダム等の対策を実施した場合、貯砂ダムの堆積土砂内にはヒ素が含まれる可能性がある。このように堆砂対策の進捗に応じた監視体制の見直しが必要である。

(2) 量的課題に関わる意見等

- 今後の流入土砂のヒ素濃度によっては、対策シナリオも別プランが考えられる。対策シナリオに柔軟性を持たせて、対応してゆくべきである。

(3) その他意見等

- 四十四田ダムの現状として、洪水対応能力に余裕がないことを認識しつつ、流域全体の整備目標を考慮して、堆砂対策を進めることが重要である。
- 市民にダムの現状を正しく認識してもらいつつ、安心感が持てるよう努めるべきである。
- 現在の四十四田ダムは三角ハイドロに基づいて、洪水操作が実施されている。ただし、三角ハイドロのみでは治水管理上は現実的ではなく、今後はソフト対策を十分に活用しつつ、操作規則の変更も視野に入れて検討すべきである。
- 現在の四十四田ダムの洪水対応能力は低下しつつあるため、ソフト対策を含めて治水計画を考えるべきである。ダムの容量については、利水・治水の明らかな容量区分はなく、降雨予測精度を向上すれば、弾力活用や御所ダムとの連携操作も可能である。

(4) 今後の予定

- 第3回委員会の助言事項を踏まえ、資料を修正する。
- 修正内容の確認については、平山委員長に一任する。